

佳作

「やってみたい」を大切に

岡山県 岡山県立倉敷天城中学校二年 山本芽生子

「やってみたい。」
その音色を生で聴いた時、そう強く感じたことを私はずっと忘れない。ギターって、こんなに優しく心地よい音をしていたのか。

あれは昨年の夏のことだ。私はアコースティックギター教室の見学に行った。きっかけは忙しい毎日でも充実したものにしたい、そんな家族の思いやりからだ。不器用な私は勉強や将来のことについて悩み、心のもやもやをうまく整理できずにいた。大好きな音楽も歌わなくなった。音楽に触れるのが久しぶりで私は緊張していた。

先生はおじいさんから学生の頃からギターを続けているそうだ。心から音楽が好きなんだな。先生が奏でるギターの音は温かくて、透き通っている。いつの間にかギターに引きつけられている自分に驚いた。

同時にこの心が弾むような感覚が、幼い頃みたくなぜか嬉しくなっていた。それから私は、先生のもとでギターを習うことを決意したのだった。

教室にはお年寄りから仕事帰りの人、私ともう一人の学生までの幅広い年齢の二十人ほどが通っている。大人数を先生たった一人が順番に教えて回る。そのため、先生から直接教わる時間はわずかで、他は各自でそれぞれの曲を練習している。

しかし、私は他の生徒さんの練習の様子を眺めるのも好きだ。さまざまな世代、ジャンルの歌を知れる。一人ひとりに味があって、聴いていると胸が熱くなる。そして何より、真剣にギターと向き合っている姿が生き生きとしていて輝いている。

ある日のレッスンの時、先生はこんなことを言った。

「やり続けていれば、なんとか形になるから大丈夫。つらくなったら続かないでしょう？だから楽しく遊びながら続けてほしい。この歳になっても、まだまだやりたいことがいっぱいあるんだ。」

私はこの言葉にはっとした。今の自分を思い返しているだろうか…これはギターに限らず当てはまる

ことかもしれない。

先生はギター以外にも大切なことを教えてくれる。私にとってギターのある水曜日は特別だ。週の真ん中で憂鬱な時でもギターの後の帰り道は、不思議と心の中で軽快なメロディーが流れている。

もうすぐギターと出会って、先生や教室の人たちと出会って一年が経つ。私はこの一年間で楽しむことや続けることの大切さ、音楽の素晴らしさを学んだ。少しずつ自分自身との向き合い方も上達した。いつも支えてくれる家族にも感謝しかない。人も音楽も、いろいろな人との繋がりがあってこそ成長するものだ。私はつくづくそう感じる。

あの日、ギターの音を聴いて「やってみたい」という気持ち芽生えたように、私はこれからも小さな好奇心を拾い上げて、ゆっくり楽しく育てていきたい。